

経済地理学会

第7回大会

シンポジウム

# わが国における後進地域 開発をめぐる諸問題

1961年4月21日(金)午前9時より

於、早稲田大学小野記念講堂(大隈銅像から)

早稲田大学は高田馬場駅からのスクール

バスが便利です。

早大 { 341-2141  
          4141

小野記念講堂は  
内線 340

# 南九州開発の諸問題

## I. 後進性の諸様相

上野 登

国際的な後進地域の規定については、国際的な生産関係を主軸として植民地、半植民地国とその抽立を繞る問題として考えられるが国内的には明確さを欠く。後進性として現象的に捉えられているがその現象は、

- a. 産業別構成からみた工業の未発達状態
- b. 第一産業の低位生産状態
- c. 労力移動にみる労力供給源地
- d. 所得水準、生活水準の低位性

## II. 開発政策の諸形態

後進性発生の基因をどのように把握するかによって開発政策の姿が規定される。南九州の後進性の基因としては次のものがある。

### a. 後進性の諸要因の反省

1. 自然条件-----特殊土壌と台風
2. 地理的距離-----青島問題、山間地向題、工業未開発問題
3. 流通体系-----その前近代性

以上の要因反省のもとで進められている政策を列挙すると、

### b. 後進地開発政策の諸傾向

1. 特殊土壌法

2. 防災啓蒙と台風災害立法
3. 特定地域
4. 離島振興法
5. 奄美復興計画
6. 集約酪農と霧島山麓開拓
7. 工業開発政策----- 細島, 八代
8. 九州総合開発法

### III 開発政策の問題点

開発政策進行の過程で抽出される諸点は、

#### a. 防災啓蒙の前進性と制約性

##### 1. 早期水稲と輪作体系

##### 2. 特土法と農業生産力と農民負担

#### b. 進行速度の遅速性と工業資本 特定地域と奄美復興の 対立的関係

#### c. 工場が誘致されない悩み

#### d. 所得格差拡大傾向の厳存

### IV 開発政策矛盾の発生論理

開発政策にもかかわらず、開発目標である地域の後進性がなくな  
らないのは、体制的な法則に基くものが多い。

#### a. 開発政策理念の変化と後進地域----- 国内市場主義と国外

## 市場主義の対立拮抗

b. 農工不均等発展の体制論理

c. 工業発展の地域論理

1. 投資の地域的形態からみた立地論

2. 規模別産業別投資からみた拮抗論理

Ⅱ. 開発政策の今後の課題と展望

a. 基本的問題 所得格差, 生産力格差

b. 工場配置と土地の私的所有性

c. 農業発展の方向と日本経済の二重構造

d. 結論にかえて

地域経済論及び政策が上からのものとして出されてきた要因と下からの要求のない現実。政策論と運動論との対立と対決の具体的方途。

## 国内における後進地域の形成

奥田 義雄

I. 後進地域問題の視点

近代世界における資本主義諸国の経済発展は、一方において、海外植民地の獲得、弱小諸国の従属化による支配を背景としており、世界の諸地域に著しい地域的隔差と対立をもたらし、先進的・後進的な諸国、諸地域の区別を生み出した。

他方これとともに、それぞれの国家における政治経済的發展の特殊性は、国家領域内における経済發展の地域差として反映され、国内に先進・後進的諸地域の隔差を形成するに至った。日本における後進地域の諸問題も、この意味において、日本資本主義の時代的進展に対応する地域的發展として捉えられねばならない。このような観点から、西南日本の後進地域を例にとり、その現状と形成過程を分析することによって、その経緯・構造を明らかにしたい。

## II. 後進地域社会の性格

後進地域の現状分析から、その特色、性格をつぎの諸点について検討する。

- a. 人口 集落構造における後進性
- b. 地方政治における問題点
- c. 経済構造 地方経済の後進性
- d. 文化構造 地方文化の問題点

総括的には、日本全域から見て先進地域と後進地域との間には着しい地域隔差が認められるばかりでなく、後進地域それ自体が地域内における着しい地域的集中と隔差を形成しているといえよう。さらに後進地域は、そこに内在する後進社会を基礎としているけれども、それとは別に一部の対照的な外表の先進社会が後進社会とは殆んど

隔絶した形で併存している。それはまさに二重構造的な地域社会の構造であると見られる。

#### Ⅲ. 後進地域の形成過程

かかる地方社会の後進性がいかにして形成されてきたか。後進地域社会の形成過程を明治以降の5段階に分けて捉えることにする。すなわち、----- オ1期：産業発生期（明治維新～明治20年代）、オ2期：産業確立期（明治20年代～オ1次大戦時）、オ3期：産業集中期（オ1次大戦後～昭和恐慌期）、オ4期：産業軍拡期（昭和恐慌期～オ2次大戦時）、オ5期：産業再編成期（オ2次大戦後～現在）。

これらの諸段階を通じて、地方産業資本の形成、中央（地域外）独占資本による地方資本の従属化、地方銀行資本の役割、商業資本と地方産業の関係などを明らかにし、地方社会が後進地域社会へと変貌する過程を追求する。

#### Ⅳ. 後進地域の開発

（今日の後進地域開発政策と今後の展望についての私見）

## わが国における離島開発の諸問題

田中豊治

1. 課題の捉え方……わが国における離島の後進性の実態を如何に捉えるかをオ1に問題にする。現象面で離島の後進性はどのように表われているか。それは如何なる経過を経て成立したか。近代

において人口の衰退した隠岐、こしぎ島、佐渡、対馬を主として分析してみる。このことは資本主義経済抜擢の中における離島の存在形態としての意義を明にする事によつて或る程度解明出来るはずである。

2. 現代における離島後進性の表現形態の主なるタイプ ----- 自然的条件が貧しく現在の経済的開発の善力をいまだ受けていない離島 - これはもつとも基本的な離島後進性を示したもので、論者はこれを「経済的限界地域としての離島」と呼びたい。次に技術資本、労力を投下して経済効果をおげ得ると予想されながら文化能力の波及を受け得難く後進性を示している島。論者はこれを「開発可能地域としての離島」と呼び度い。

3. 離島開発の諸形態 ----- 離島開発の目標となる地域は前節の「開発可能地域としての離島」であるはずで交通面、生産面、加工面、流通面の進展を技術的、資本的、労力的に要求している地域である。しかし島が内包する経済資源の量的差異によつて自ら段階が生ずる。

(A) 貴い物型 ----- 「離島復興法」の補助又は島外資本の導入によつて離島の文化面、生活面が向上しても島自体の生産力向上にはさして目ぼしい効果が見られない型。我が国の離島には此の段階のものが極めて多い。

(B) 資源開発型-----大資本の投入によつて大企業体が資源を開発する型で、もつとも代表的な例は渚久島の場合である。小野田セメントを中核とする新日本窒素、旭化成、神戸製鋼の化学工業資本の進出して豊富な水力電気が利用されて近代化学工業が成立する。但し島民の直接利益とは一致しない。

(C) 栽植農業型-----厳密な意味で栽植農業型とは云えないが、奄美諸島、薩南諸島の甘蔗栽培は太平洋業、横濱製糖系の製糖大資本による開発が中核である。最北の伊豆大島および八丈島におけるパッションフルーツの栽培も太平洋業の進出による栽植農業的開発である。これも(B)同株島民の利益と完全に一致するとは限らない。

(d) 特殊環境利用型-----八丈島の乳牛飼養、観葉植物の栽培とその商品化の形態は此の型。

(e) 観光型-----八丈、伊豆大島、佐渡、隠岐島の諸島が今後観光を開発の主体とすることは明白である。

4. 離島開発の限界-----離島において生産、加工、流通が本土と何等差異なく発達するためには資源が豊富共にすぐれていることが前提で、その他の場合においては離島は本土に比して運賃および生産費が割高になることは自明の事である。従つて近代的加工が成立することは困難で、特に水産物の水揚場としては今後は到



本质上の大消費地には対抗出来ない。離島が社会経済的に存在し得る条件は本土の大人口集中地を消費市場として相対的に意義を持ち得る場合にのみ可能である。

更に島民の社会的、経済的幸福の向上、発展のためには資本主義機構のもとにあつては本土に対しその経済力は到底従属的であるので或る程度「社会化」の政策が行なわれなければ離島は本土の持つ矛盾をより単的に露呈するのみである。

## 東北の工業開発の諸問題

長谷川 典夫

経済地理学会第6回大会のシンポジウム「後進地域の諸問題」において後進回及び後進地域の問題にわけて討議が行われた際、特に要請され今後の課題とされたのは、具体的実例の検討であり、現実のあり方の吟味であつた。従つて今回東北の工業化の問題をとりあげるに当つては、開発を進めるにあつて工業か、農業かというような問題提起ではなしに、現実に工業化の進行に伴つて生じつつある問題を、出来るだけ具体的に報告して資料とし、以後の討議の素材としたい。

内容は便宜上次の9つにわけらる。

1. 国内開発の理論と動機
2. 東北の後進性

3. 東北の工業
4. 工業化に伴う各地域の問題
5. 仙塩地域に集約される諸矛盾
6. 東北の工業化の推進母体
7. 広域都市圏構想
8. 両発の拠点としての仙台
9. 要約

東北の工業化がどのような条件下に、どのような形で行われつつあるか、そしてどのような問題がおりつつあるか、工業化の担い手は誰であるのか、こういう点が少しづつでも明らかにされれば、農業の面からのアプローチとともに、わが国における後進地域開発問題をより深く浮き立たせることができよう。